

令和7年第3回さつま町議会定例会 一般質問通告書

令和7年9月9日（1～5番）、10日（6番～9番）

順番	(議席番号) 質問者	質問事項・要旨	答弁を 求める者
1	(1) 岸良 光廣	<p>1 行政改革について 今後ますます進む人口減少に伴う課題について</p> <p>(1) 人口数と行政の職員数について (新規採用と中途採用を含む)</p> <p>(2) 今後の地場産業の育成について ア さつま町が発注する事業や備品、材料等の地場産業 100パーセントの受注について イ 入札制度の現状について</p> <p>(3) 小学校の再編や通学バス等の見直しについて</p>	町 長
2	(6) 古田 昌也	<p>1 保育料無償化の現状に付随する子育て支援について 保育料完全無償化が始まり、子育て世代には大変喜ばれている。 しかしながら、根本である制度の内容が上手く利用者に伝わらず、受け入れ側の一部の保育園や保育士の負担が増加し、人材の確保や保育環境の質の低下が起こるのではないかという声も聞こえる。 本町として、この現状は把握しているのか。 また、対応策は考えているのか。</p> <p>2 外国人雇用と共生について 本町のみならず、人手不足のために外国人労働者の雇用が進んできている。 また、特定技能外国人や技能実習生の受け入れを積極的に取り入れる企業も増えてきており、本町でも多く見られるようになった。 そこで、本町としてこの外国人雇用の現状をどのように考えているのか。 また、特定技能外国人などは未来の担い手になる可能性を秘めているので、地域になじんで頂きたいが、その対策などはしているのか。</p> <p>3 国の動向について 最近、マスコミなどで、消費税などの議論において地方の現状を把握していないような報道が多くみられる。 実際、ほとんどの市町村は自主財源が3割程度で、地方交付税が無ければ、予算が組めない現状である。 そのため、国の施策が地方に与える影響は大きく、正に、東京一極集中による弊害と考えている。 この現状を町長はどのように考えているのか。</p>	町 長 町 長 町 長

順番	(議席番号) 質問者	質問事項・要旨	答弁を 求める者
		<p>との見込みで、作付け面積が大幅に減少(前年対比60%減)している。地元産の原料にこだわる製造業者からは、数量を確保することが困難との声もある。</p> <p>こうした現状を受け、加工用米の生産性向上取組加算として、町単独の加算金を20,000円/10a(昨年15,000円/10a)に引き上げる対策を講じられているが、面積拡大には至っていない。</p> <p>面積確保に向けた次年度の対策について、加算金の更なる上乗せを含め、町長の見解を問う。</p> <p>2 WCS用稲の検査基準について</p> <p>本町のWCS用稲の栽培については、さつま町農業再生協議会を中心に、例年、耕作者を集めた説明会を実施し、栽培管理や経営所得安定対策についての説明を行っている。しかしながら、圃場の確認検査については、検査後、毎年のように検査に対するクレームが発生している。現場の職員は非常に苦慮しており、また、生産者も疑念を払しょく出来ない部分もある。国の指導では、検査基準についての明確な基準は示されず、地域農業再生協議会の判断に委ねられているのが現状である。</p> <p>このような状況下、町として、統一した検査指針、若しくは検査基準を示す検査マニュアル等を作成することができないか、町長の見解を問う。</p> <p>3 農業管理センターの運営について</p> <p>農業管理センターについては、現在、町とJAとの共同出資(町70%・JA30%)で運営が行われている。業務内容としては、農業従事者に対する労災保険の窓口、農作業受委託の取りまとめ、農作業受託料金の設定などを行っている。以前は、農地の貸借に関する業務を主として行っていたが、現在、この業務は農地中間管理機構へ移行され、また、農作業の受委託についても、直接オペレーターへ依頼される相対取引が多く、管理センターの機能が低下している。</p> <p>また、以前の一般質問で農業公社への移行も提案されたが、隣接する市町の公社の経営状況を踏まえ困難との判断に至っている。</p> <p>今後の運営管理について、町長の見解を問う。</p> <p>4 今回の8月豪雨水害における被災農家への対応について</p> <p>今回の8月豪雨により旧薩摩地区(求名・永野・中津川)に被害が集中している。特に中津川地区においては、南方川の氾濫により水田に土砂・流木等が流入し甚大な被害が発生している。川の流域一帯では、種子粃の作付けがされており、</p>	<p>町長</p> <p>町長</p> <p>町長</p>

順番	(議席番号) 質問者	質問事項・要旨	答弁を 求める者
		また、本町で農業などに従事している方々に対し、農協と手を組み農業指導も含めて、今後、町として対策を強化する考えはないか。	
8	(11) 有川 美子	<p>1 入湯税について</p> <p>町政における課題の一つとして自主財源の確保がある。令和5年度決算における自主財源は30.5%で、依存財源は69.5%だった。我が町が30年後も生き残るためにも自主財源確保に向けた議論と決断が必要な時期だと考える。</p> <p>本町の入湯税1人1日100円を、標準税率150円へ引き上げる是非について町長の考えを問う。</p> <p>(1) 標準税率より低くしている理由と、入湯税を徴収している鉱泉浴場の施設数及び合計税額は。</p> <p>(2) 仮に入湯税率を標準税率まで引き上げた場合に考えられるメリット・デメリットは何か。</p> <p>2 学校施設の空調設備について</p> <p>気象庁のホームページでの発表によると、我が町の今年7月、日最高気温の平均値は33.5℃で、昨年同月の32.8℃より上がっている。</p> <p>町民から学校関連施設の空調設備設置について要望があり、以下質問する。</p> <p>(1) 小中学校の体育館へ空調設備を設置する考えや計画はあるか。</p> <p>(2) 学校給食センターの調理場は調理中高温になると聞いているが、スポットクーラーでの対応だけで十分か。</p>	町 長 教育長
9	(13) 中村 慎一	<p>1 紫尾神の湯キャンプ場の今後の方針について</p> <p>紫尾神の湯キャンプ場の今後の取扱いに関して以下の点を問う。</p> <p>(1) 紫尾神の湯キャンプ場の現状と課題について、また当該施設への町の評価と価値について説明を求める。</p> <p>(2) 令和3年に定めた「個別施設計画」の目的及び性格について、また計画で定めた廃止施設、継続施設等の振り分けた考え方について説明を求める。</p> <p>(3) 鹿児島銀行の紫尾地区ローカルブランディングの報告内容の説明と、またこの中で神の湯キャンプ場等に対する評価・位置付けはどうか、さらにはこのブランディングを通してさつま町は何をしようとしているのか説明を求める。</p> <p>(4) 町政振興に当たって物産・観光やローカルツーリズム等によって交流人口を増やすことは大事である。紫尾温泉や周辺地区は一つの大事な資源だと思うが、今後の町の地域</p>	町 長

順番	(議席番号) 質問者	質問事項・要旨	答弁を 求める者
		<p>振興や地域経済・町民所得の向上に向けての総合的な振興策について紫尾地区の位置付けを含めて説明を求める。</p> <p>2 紫尾小学校廃校施設の今後の方針について 紫尾小学校跡の校舎利用について、先の業者選定の経緯、及び現在の状況と今後の方針について説明を求める。 また、これまで地元には経緯等の説明はされてきたのか。地域の関心は高い。途中経過について説明をされる考えはないか。</p> <p>3 福祉医療施設等への物価対策、人材確保対策等について (1) 町内の医療福祉関係の施設については昨今の物価・米価高騰・クラスター等の感染症対策など医療施設や福祉・介護・児童施設等では施設の負担が増え厳しい経営環境に置かれている。 また、利用者や在宅の高齢者等にも影響し、利用控え、食事の制限など厳しい状況になってきている。これに対する支援対策を独自に講じる考えはないか。 (2) 医療介護施設における外国人雇用による人材確保については施設の運営において欠かせないところにあるようだが、これについては多額の経費を必要とされ事業所負担が大きい。これに対する支援を行う考えはないか。</p>	<p>町 長</p> <p>町 長</p>